『第 15 回北陸ブロック大会 発表・シンポジウム』に参加して①

報告者：万葉居宅介護支援事業所　松谷 三和

今回のブロック研修会では山岸暁美先生の基調講演『地域 BCP のススメ』、発表・シンポジウムでは他の発表者の皆様の高い専門性と幅広い知識と見識に富んだご意見を拝聴し、改めて災害時こそ『地域で支え合う仕組み』が必要であることを学びました。

私自身、能登半島地震の際には氷見市にて震度５強の揺れを経験しました。混乱の中で利用者様やご家族の安否確認に奔走し、災害時のケアマネジメントはマニュアルではなく、『命を守る判断力』が問われることを身をもって痛感いたしました。

発表者 松谷美和氏

私の発表では、災害対応について『①平時』・『②発災時』・『③事後』の３つのフェーズに分けて

① 平時には『情報の共有』と『顔の見える連携』の重要性

② 発災時には『無理をしない勇気』と『地域との協働』の重要性

③ 事後には『振り返りを次につなげること』の重要性

以上のそれぞれにおける重要な点を述べさせていただきました。

また、情報収集や連携の面では、写真・動画・AI などの活用が有効であること、更に平時から行政・医療・介護・住民・多機関との顔の見える関係づくりが、非常時の迅速な支援につながることを提案させていただきました。

他の５名の発表者の皆様の発表では、被災地での実践例や支援体制づくりの工夫が紹介され、自地域においても BCP（業務継続計画）の再整備と職員間の訓練の必要性を強く感じました。

能登半島地震の教訓を風化させることなく、「それでも命を守りたい」という思いを胸に未来へとつながるケアマネジメントを創造していきたいと思います。

今後も災害の経験を共有しながら、安心して暮らせる地域づくりに貢献してまいります。

今回のブロック研修会、発表・シンポジウムに参加させていただき本当にありがとうございました。